

※公募の詳細については、公募機関(AMED)のwebサイトで必ず確認してください。(H28.11.08現在)

【H29年度日本医療研究開発機構(AMED)研究費】

【公募締め切り・事業紹介リンク先】

新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	研究推進課学術調整係への提出期限 平成28年12月2日(金) (AMEDの期限は平成28年12月9日(金)正午【厳守】) ○提出方法:e-Rad(機関承認要)
<a href="http://www.amed.go.jp/koubo/010620161013-01.html">http://www.amed.go.jp/koubo/010620161013-01.html</a>	※希望者には、先端科学・イノベーション推進機構(O-FSI)による提案書アドバイス等を行いますので、O-FSI( fsojimu@adm.kanazawa-u.ac.jp )へ相談ください。

【公募課題概要】

	研究費(年間) (間接経費を含む)	研究期間	採択件数	公募する研究内容、求められる成果等
--	----------------------	------	------	-------------------

新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業

1. ウイルス性出血熱に関する診断法・治療法・ワクチン等の開発研究

1-(1) ウイルス性出血熱に対する診断法・治療法等の開発に向けた研究	10,000~50,000 千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】 平成26年西アフリカにおいてエボラ出血熱の大規模な流行が起こり、現在流行は沈静化しているものの今後の感染拡大の可能性は依然として懸念されている。また、ラッサ熱、マールブルグ病、クリミア・コンゴ出血熱等の一類感染症の流行は世界各地で発生し、これらに対する感染症対策の強化は喫緊の課題である。本研究開発課題では、国際的に脅威となる一類感染症をはじめとしたウイルス性出血熱に対する対策を強化するために、迅速診断法及び治療薬等の開発に向けた研究開発を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① ウイルス性出血熱を引き起こす病原体に対する迅速診断法等の開発 ② 抗ウイルス薬等の非臨床試験・臨床試験の準備</p>
1-(2) エボラ出血熱に対する新規ワクチンの開発研究	10,000~30,000 千円程度		0~2課題程度	<p>【目標】 平成26年西アフリカにおいてエボラ出血熱の大規模な流行が起こり、現在流行は沈静化しているものの今後の感染拡大の可能性は依然として懸念されている。本研究開発課題では、エボラ出血熱に対する対策を強化することを目的とし、有効性・安全性の高い次世代ワクチン、及びワクチンの効果をさらに高めるためのアジュバント開発等に向けた研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① 新規ワクチンの製造方法の基盤確立 ② 新規ワクチンの免疫原性を高めるための検討、有効性・安全性の検証</p>

2. インフルエンザに関する診断法・流行予測手法の開発研究、及びワクチンの評価に関する研究

2-(1) 新型インフルエンザ等、新興ウイルス性呼吸器感染症の新規迅速診断法開発に向けた研究	10,000~30,000 千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】 新型インフルエンザや中東呼吸器症候群(MERS)等の新興呼吸器感染症は、国や地域を越えて流行の拡大が懸念されている。これら新興呼吸器感染症の発生に備え、感染症の早期診断治療、封じ込め又は感染拡大の防止に向けた我が国の検査・診断体制の強化が求められている。本研究開発課題では、医療機関、検疫所、地方衛生研究所等で連携して利用可能な簡便な病原体迅速診断法の開発を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① 複数の新興呼吸器感染症の鑑別が可能であり、ベッドサイドで実施可能な病原体迅速診断法(POCT: point of care test)の開発 ② 開発した迅速診断法の医療現場等における有用性の検証 ③ 海外研究機関と連携した国内発生が稀な病原体に係る調査、開発した迅速診断法の性能評価等の実施 ④ 国内の医療機関、検疫所、地方衛生研究所等との連携による全国的な病原体検査網の構築に資する基盤整備と実地検証</p>
--	-----------------------	------	---------	--

2-(2) 新型及び季節性インフルエンザウイルスの解析と新規流行予測手法の開発に向けた研究	10,000~50,000 千円程度		0~2課題程度	<p><b>【目標】</b> 季節性インフルエンザは我が国で毎年発生し、流行の程度やピークの時期、流行するインフルエンザウイルスはその年によって異なる。また新型インフルエンザは季節性インフルエンザとはウイルスの抗原性が大きく異なり、ひとたび流行が発生すると急速に感染が拡大し国民の生命及び健康に重大な影響を与える恐れがある。インフルエンザの重症化・合併症発生の予防にはインフルエンザワクチンの接種が有効であることが証明されているが、そのためには今後流行するインフルエンザウイルスを正確に予測し、そのウイルスに合ったワクチン接種を行う必要がある。本研究開発課題では、国内外で流行したインフルエンザウイルスの情報を集積し、これを解析することによって新たなインフルエンザ流行予測手法開発に資する研究を推進する。</p> <p><b>【求められる成果】</b> ① 国内外で流行したインフルエンザウイルスのゲノム・検体収集及び解析 ② 効果的なインフルエンザワクチンの選択が可能となるインフルエンザ流行予測手法の開発</p>
2-(3) 細胞培養新型インフルエンザワクチンのヒトにおける有効性及び安全性の検討	10,000~40,000 千円程度		0~2課題程度	<p><b>【目標】</b> 新型インフルエンザは、季節性インフルエンザとはウイルスの抗原性が大きく異なるウイルスによるインフルエンザであり、ひとたび流行が発生した場合には、急速に感染が拡大し国民の生命及び健康に重大な影響を与える恐れが懸念されている。我が国では、平成18年より、病原性が高く大きな健康被害が想定されるインフルエンザA(H5N1)ウイルスについてプレパンデミックワクチンの備蓄が開始されている。また、従来の鶏卵培養ワクチンに加えて、新たに細胞培養ワクチンをプレパンデミックワクチンとして備蓄することとされている。本研究開発課題では、H5N1亜型をはじめとする新型インフルエンザ対策に使用される細胞培養インフルエンザワクチンについて、ヒトにおける有効性及び安全性の確認、有効な接種方法等の検討を行うための臨床研究を推進する。</p> <p><b>【求められる成果】</b> ① 医師主導臨床研究の実施 ② H5N1亜型等の細胞培養新型インフルエンザワクチンのヒトにおける有効性及び安全性の解析</p>
<b>3. グローバルサーベイランスのためのRSウイルス感染症に関する開発研究</b>				
3-(1) RSウイルス感染症サーベイランスのための基盤整備及び新規検査・診断法開発に資する研究	5,000~15,000 千円程度	最長 3年	0~2課題程度	<p><b>【目標】</b> RSウイルス(RSV)は乳幼児急性下気道感染症の原因の第1位となっている。WHOでは2017年よりRSVのグローバルサーベイランスを開始し、これにより世界各地のRSV感染症の季節性・地理情報等について情報を収集し、ヒトに対するRSV感染症の疾病負担を明らかにすることを目的としている。本研究開発課題では、RSVグローバルサーベイランスに合わせた国内サーベイランス体制の構築に向け、RSV感染症の確定検査が可能な検査法の確立・標準化を行い、より正確なRSV感染症患者の把握を目指す。</p> <p><b>【求められる成果】</b> ① 地方衛生研究所とのネットワークを活用した日本国内におけるRSV感染症の発生動向把握 ② 臨床サンプルを用いたRSV検査法の確立と標準化</p>
<b>4. ウイルス性下痢症に関する基盤的研究・診断法・流行予測手法の開発研究</b>				
4-(1) ウイルス性下痢症の制御法開発に資する網羅的分子疫学研究及び流行予測法の開発	10,000~30,000 千円程度	最長 3年	0~2課題程度	<p><b>【目標】</b> 未だ効果的な感染制御法が確立されていないため、ノロウイルス、サボウイルス、ロタウイルスによる流行性胃腸炎、冬期集団食中毒は毎年世界的規模で発生し、社会活動や経済活動に大きなダメージを与えている。本研究開発課題では、ノロウイルス、サボウイルス、ロタウイルスに代表される下痢症ウイルスを対象とした効果的な感染制御に向けた基盤開発、網羅的な分子疫学的研究とその応用による流行株予測プログラムの構築に資する研究を推進する。</p> <p><b>【求められる成果】</b> ① ウイルス性下痢症の流行予測に資する分子疫学的解析法の開発とその応用 ② ウイルス性下痢症の流行予測プログラムの基盤構築 ③ 下痢症ウイルスのゲノムデータの共有と提供に向けた検討 ④ ウイルス性下痢症サーベイランスネットワークを利用した実地検証</p>

4-(2) 下痢症ウイルスの病原性発現機構の解明及び新規治療薬・ワクチン等開発に向けた研究	10,000~30,000千円程度		0~2 課題程度	<p>【目標】 ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルスによる流行性胃腸炎、冬期集団食中毒の発生は、毎年世界的規模で発生し、ヒトの社会活動や経済活動に大きなダメージを与えている。これは、ワクチンや治療薬などの効果的な感染制御法がないことが大きく起因する。本研究開発課題では、ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルスに代表される下痢症ウイルスを対象とした新規治療薬や新規ワクチン開発、及びその基盤となる病原性の解析、宿主への感染機序等の解明に資する研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① ウイルス性下痢症に対する新規治療薬・ワクチン・消毒薬の開発に資する病原性発現機構、宿主への感染機序の解明 ② ウイルス性下痢症に対する新規治療薬・ワクチン・消毒薬の評価のためのインビトロ評価システム構築・モデル動物の開発 ③ 上記①、②を踏まえた新規抗治療薬、ワクチン、消毒薬の開発</p>
<b>5. 昆虫媒介性ウイルス感染症に関する開発研究</b>				
5-(1) 国内侵入・流行発生が危惧される昆虫媒介性ウイルス感染症に対する総合的対策に資する開発研究	10,000~70,000千円程度	最長3年	0~2 課題程度	<p>【目標】 近年、デングウイルス、チクングニアウイルス、ジカウイルス等による昆虫媒介性ウイルス感染症は世界的に流行域が拡大し国内への流入が危惧されているため、国内発生に備えた対策が急務である。本研究開発課題では、昆虫が媒介するウイルス感染症について、ウイルスの分子疫学的解析や病原性の解析等の基盤研究、検査・診断法の開発やワクチン・抗ウイルス薬開発等、昆虫媒介性ウイルス感染症に対する総合的対策の確立に資する研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① 昆虫媒介性ウイルス感染症の発症機序等の解明 ② 昆虫媒介性ウイルス感染症の迅速診断法の基盤、新規治療薬・ワクチン等のシーズ開発 ③ 昆虫媒介性ウイルス感染症のウイルス遺伝子情報の収集と解析、サーベイランス体制構築に向けた基盤整備</p>
<b>6. HTLV-1感染症に関する開発研究</b>				
6-(1) HTLV-1の疫学研究及び総合的対策に資する研究	上限50,000千円程度	最長3年	0~1課題程度	<p>【目標】 我が国におけるヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)感染者数は約80万人と推定されており、感染したヒトの一部では成人T細胞白血病(ATL)、HTLV-1関連脊髄症(HAM/TSP)等の重篤な疾病の発症が認められることが報告されている。現時点では、これらの疾病に有効な治療法は確立されておらず、感染者の発症予防法及び治療法の開発並びに新たな感染拡大の防止対策の推進が急務となっている。本研究開発課題では、HTLV-1感染者の発生動向を把握するとともに、適切な診断体制の整備及びHTLV-1感染拡大の抑制等に寄与することを目的とした研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① 国内HTLV-1感染者の疫学調査の実施と動向把握 ② HTLV-1検査法の改良及びガイドライン等の改訂・普及等 ③ 上記①の成果に基づく感染制御対策の提言</p>
6-(2) HTLV-1予防ワクチンの開発に向けた研究	10,000~30,000千円程度		0~2課題程度	<p>【目標】 我が国におけるヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)感染者数は約80万人と推定されており、感染したヒトの一部では成人T細胞白血病(ATL)、HTLV-1関連脊髄症(HAM/TSP)等の重篤な疾病の発症が認められることが報告されている。現時点では、これらの疾病に有効な治療法は確立されておらず、感染者の発症予防法及び治療法の開発並びに新たな感染拡大の防止対策の推進が急務となっている。本研究開発課題では、HTLV-1感染及び発症を予防する新規ワクチンの開発に向けた研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① HTLV-1予防ワクチンの開発に資する、ウイルス特性、宿主免疫応答メカニズム等の解析の実施 ② HTLV-1予防ワクチンの候補品の確立、非臨床試験でのPOCの検証 ③ HTLV-1感染症の疫学調査結果等を踏まえたワクチン接種戦略の立案</p>

6-(3) HTLV-1感染における疾患発症メカニズムの解明と疾患リスク予知・発症予防に資する研究	10,000~35,000千円程度		0~2課題程度	<p>【目標】</p> <p>HTLV-1は、成人T細胞白血病(ATL)、HTLV-1関連脊髄症(HAM/TSP)といった2つの異なる疾患を引き起こすが、その発症メカニズムの詳細は不明であり、感染者に対する疾患リスク予知や発症予防法は確立されていない。本研究開発課題では、HTLV-1感染・疾患発症制御法及び疾患リスク予知の確立に資する研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】</p> <p>① ATLとHAM/TSPの異なる疾患発症メカニズム等の解明  ② HTLV-1キャリアの疾患リスク予知に有用な基盤的研究及び疾患リスク予知法の開発  ③ HTLV-1キャリアの疾患発症予防に資する基盤的研究及び疾患発症予防法の開発  ④ 新規治療方法の開発</p>
<b>7. 結核対策に関する開発研究</b>				
7-(1) 結核低蔓延化に向けた国内の結核対策に資する研究	10,000~25,000千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】</p> <p>平成26年の「改訂版ストップ結核ジャパンアクションプラン」において、我が国は平成32年までに低蔓延国(結核罹患率人口10万対10以下)となることを目指すとしており、「結核に関する特定感染症予防指針」においても、その目標に向かって、必要な対策が推進されようとしている。我が国の結核患者の大半は高齢者であり、都市部でより患者が集中している一方で、都市部に限らず、若年者や海外の結核高蔓延国の出身者による結核の集団発生も散見されている。本研究開発課題では、これら我が国における結核の疫学的状況を踏まえ、特に地方自治体や医療機関等の協力・連携を基盤とした結核対策の推進を目指し、効率的な患者発見手法の開発、患者が少ない地域の結核医療提供体制の検討、関係機関の連携強化や人材育成等、低蔓延化に向けた総合的な結核対策に資する研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】</p> <p>① 結核封じ込めに向けた集団発生時の疫学調査や接触者健診の標準化手法等の開発  ② 診断、治療及び患者支援の質の向上を目指した人材育成・技術支援ツール、手引き等の作成  ③ 全国の地方自治体や医療機関等の結核対策に資する協力体制の強化  ④ 高齢者、ハイリスクグループ(発病する危険性が高い者)、デインジャーグループ(二次感染を生じやすい職業に就いている者)に対する結核対策強化に向けた検討</p>
7-(2) 海外とのネットワークを活用した多剤耐性結核の総合的対策に資する研究	10,000~20,000千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】</p> <p>我が国においては、結核患者数は減少傾向にあり、多剤耐性結核(MDR-TB)も多くはないが、近隣の結核高蔓延国においてはMDR-TBが増加傾向にあるため、輸入感染症としてのMDR-TBに対するリスクは高まりつつある。本研究開発課題では、海外のMDR-TBの発生動向や対策状況の把握、MDR-TBの早期発見、蔓延防止等総合的なMDR-TB対策の確立に資する研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】</p> <p>① アジア及びアフリカ地域を中心とした結核高蔓延国におけるMDR-TBの発生動向及び対策の現状の把握  ② MDR-TB患者の診断・治療法開発に資するバイオマーカーの探索  ③ MDR-TB患者の早期発見のための簡易迅速な診断法の確立  ④ MDR-TBとHIV/エイズ等の合併症対策に向けた検討</p>
<b>8. 非結核性抗酸菌症に関する開発研究</b>				
8-(1) 非結核性抗酸菌症の発生動向把握及び診断・治療法の開発に向けた研究	10,000~20,000千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】</p> <p>非結核性抗酸菌症の累積患者数は年々増加傾向にあり、罹患率はすでに肺結核をしのぐとの報告があるが、有効な治療法はほとんどない。本研究開発課題では、継続的な疫学調査による全国規模での実態把握、適切な検査・診断法や治療法の確立、及び新規治療薬等の開発に資する感染機序の解明に向けた研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】</p> <p>① 非結核性抗酸菌症の発生動向の把握及び疫学調査  ② 非結核性抗酸菌の全ゲノム情報に基づく分子疫学的解析法の確立  ③ 非結核性抗酸菌症の検査・診断法や治療法の開発</p>

<b>9. 劇症型溶血性レンサ球菌感染症等に関する開発研究</b>				
9-(1) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症等の毒素細菌感染症に対する治療法の確立に向けた研究	5,000~15,000千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】 β溶血を示すレンサ球菌によって引き起こされる劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、感染の進行が極めて早く、致死率が30~70%と高いことから迅速な診断と適切な治療が救命には不可欠である。治療にはペニシリン系抗菌薬が有効とされるが、レンサ球菌以外の菌を含む複合感染の場合や薬剤耐性等の問題も存在し、異なる作用機序を基にした治療法の確立が求められている。本研究開発課題では、劇症型溶血性レンサ球菌感染症等を対象とした新たな治療法開発に向けた研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① 劇症型溶血性レンサ球菌感染症等に有効な新たな治療法の開発</p>
<b>10. 真菌感染症に関する開発研究</b>				
10-(1) 酵母様真菌感染症の感染制御に資する総合的研究	5,000~20,000千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】 播種性クリプトコックス症や侵襲性カンジダ症は、菌血症や脳髄膜炎等重篤な病態を引き起こす。これらの感染症の原因となる病原性の高い酵母様真菌について、近年その公衆衛生的・臨床的重要性が認識されつつある。本研究開発課題では、酵母様真菌感染症について、臨床応用を目指した新規迅速診断法・治療法の確立及びその基盤研究、発生動向の把握を可能とする疫学調査及び分子疫学的解析等、重症化を防ぐ感染制御法の確立に資する研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① 重症化を防ぐための新規治療プロトコルの開発 ② 早期診断を可能とする迅速診断法の開発 ③ 酵母様真菌感染症の発症にかかわる病原因子や重症化メカニズムの解明等創薬等に向けた基盤整備 ④ 発生動向の把握を目的とした疫学調査の実施及び分子疫学的解析</p>
<b>11. 原虫・寄生虫に関する開発研究</b>				
11-(1) 原虫・寄生虫の総合的対策に向けた開発研究	10,000~40,000千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】 原虫・寄生虫に関しては国内におけるサーベイランス体制が十分でなく、監視・制御体制の整備が必要とされている。また、迅速な原虫・寄生虫の発生動向調査にはその検査・診断法の確立が重要である。本研究開発課題では、原虫・寄生虫に関する病原性や寄生様式の解明等に向けた基盤的研究、またそれを基にした診断法の確立、並びに感染実態把握・制御を目的としたサーベイランス体制の強化等、原虫・寄生虫における総合的対策に資する研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① 原虫・寄生虫に対する新規薬剤・ワクチン開発に資する病原性・寄生様式等の解明 ② 原虫・寄生虫に対する検査・診断法の確立 ③ 国内の原虫・寄生虫に対するサーベイランス方法の開発 ④ 原虫・寄生虫に対する分子疫学情報の整備及びその解析法の確立</p>
<b>12. 薬剤耐性菌に関する開発研究</b>				
12-(1) 薬剤耐性菌ゲノム情報の分子疫学的研究に基づく薬剤耐性菌克服に向けた総合的研究	10,000~20,000千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】 薬剤耐性菌はWHOやG7先進国首脳会議等においても重要な課題とされてきており、近年では新規抗菌薬での耐性菌の出現や、複数の抗菌薬に抵抗性を示す多剤耐性菌が大きな問題となっている。我が国では、平成28年4月に薬剤耐性(AMR)対策アクションプランが策定され、ワンヘルス・アプローチの視野に立ち、ヒト、動物等の垣根を超えた取組みを推進するとの基本方針が定められた。本研究開発課題では、薬剤耐性菌ゲノムデータを利用し、薬剤耐性のメカニズム解析等の基礎的研究を実施するとともに、薬剤耐性菌感染症克服に向けた対策支援及び診断法・治療法開発に資する研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① 薬剤耐性菌ゲノムデータの解析による病原体の薬剤耐性獲得メカニズムや薬剤耐性伝播機序等の解明 ② 国内外の研究機関等との薬剤耐性菌ゲノムデータの共有と提供に向けた検討 ③ 薬剤耐性菌感染症克服に向けた対策支援、診断法、治療法開発に資する研究の推進</p>

13. アジア各国とのネットワーク構築に関する開発研究				
13-(1) アジア各国の国立感染症研究機関等とのラボラトリーネットワークの促進による感染症の実態把握と対策に向けた研究	100,000千円程度	最長3年	0~1課題程度	<p>【目標】 近年のグローバル化の進展等に伴い、国や地域を越えた感染症の拡大が問題となっている。特に、我が国と地理的にも近接しているアジア地域では、我が国では発生の認められない腸管感染症、呼吸器感染症、ベクター媒介性感染症等をはじめとした種々の感染症が発生しており、ヒトや物流等を介して我が国に侵入するリスクが懸念されている。本研究開発課題では、アジア地域における感染症の実態を把握し、我が国への侵入に備えるため、アジア地域の複数の国立研究機関等とのラボラトリーネットワークの強化に向けた研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① アジア地域の複数の国立感染症研究機関等とのラボラトリーネットワークの構築と連携強化に向けた取組みの実施 ② アジア地域の感染症の実態把握及び我が国への侵入防止に向けた国立感染症研究機関等との取組みの実施 ③ 多国間での研究協力体制の構築とその活用</p>
14. 感染症対策に資する数理モデルの開発研究				
14-(1) 新興・再興感染症対策に資する数理モデルの開発研究	5,000~10,000千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】 近年、エボラ出血熱やジカウイルス感染症等の流行が発生し、改めて感染症の制圧に向けた迅速かつ適確な対策の重要性が再認識されている。本研究開発課題では、感染症対策や予防接種行政等における判断の科学的根拠となる感染症伝播・流行予測を可能とする数理モデルの開発・応用研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① 感染症対策に資する数理モデルの開発 ② 実際の流行データを用いた開発数理モデルの精度検証の実施 ③ 臨床現場等への解析データの情報共有体制の検討</p>
15. 新規ワクチンの開発・実用化に資する開発研究				
15-(1) 我が国で求められる画期的な新規ワクチンの開発・実用化に資する研究	10,000~30,000千円程度	最長3年	0~3課題程度	<p>【目標】 我が国で社会的要請が高いがワクチンが実用化されていない感染症に対し、より安全かつ有効で、世界に向けて展開することができる次世代ワクチンの開発に資する研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 ① 新規作用機序に基づくワクチンのシーズ開発 ② ワクチンベクターやアジュバントのシーズ開発 ③ ワクチン評価系及び製造法の確立等に資する基盤開発</p>
16. 薬剤耐性菌対策に資する診断法・治療法等の開発研究				
薬剤耐性菌対策に資する診断法・治療法等の開発研究	10,000千円程度	最長3年	0~2課題程度	<p>【目標】 薬剤耐性菌はWHOやG7先進国首脳会議等においても重要な課題とされてきており、近年では複数の薬剤への抵抗性を示す多剤耐性菌が大きな問題となっている。本研究開発課題では、薬剤耐性対策に資する診断法や治療法の開発を目指す。治療法開発に関しては、薬剤耐性を有する腸内細菌や肺炎桿菌、エンテロバクター、緑膿菌、黄色ブドウ球菌等、既存の抗菌薬による治療が困難な病原体に有効な新規抗菌薬を開発する。また、診断法開発に関しては、抗菌薬の適正使用等の薬剤耐性対策に有用な簡便、迅速な診断法を開発する。</p> <p>【求められる成果】 ① 治療法に関しては、現在問題となっている治療困難な薬剤耐性菌に対して有効な新規抗菌薬の開発 ② 診断法に関しては、抗菌薬の適正使用等の薬剤耐性対策に有用な簡便、迅速な診断法の開発</p>
17. 新興・再興感染症対策の強化に必要な基盤技術の創出、診断・治療・予防法の開発研究				
新興・再興感染症対策の強化に必要な基盤技術の創出、診断・治療・予防法の開発研究	10,000千円程度	最長3年	0~3課題程度	<p>【目標】 現時点で実施する必要性の高い新興・再興感染症に関連する研究を実施し、総合的な感染症対策の強化に資する基盤技術の創出又は革新的な感染症の診断・治療・予防等に関する方法の開発を行う。</p> <p>【求められる成果】 ① 総合的な感染症対策の強化に資する基盤技術の創出、あるいは新規診断法・治療法・予防法等の開発（ワクチン開発を除く）</p>